

第3回 飯綱町輝く農山村地域創造推進企画会議

1. 開催概要

○日 時 令和6年11月1日（金） 19:00～20:40

○場 所 飯綱町役場2階会議室

○出席者

〈委 員〉

山田委員、古木委員、西澤委員、廣田委員、久保田委員、山下委員、中村委員、
藤原委員、小野委員

〈地域おこし協力隊〉

三原委員、石川委員、原口委員、木内委員、山城委員、鎗木委員

〈一般参加・傍聴〉

相澤氏、吉川氏

〈事務局〉

産業観光課：佐藤副参事

産業観光課農政係：土屋調整幹、西澤係長、原田担当係長

株式会社KRC 小林、木下

○欠席者

〈委 員〉土倉委員、中條委員、天野委員、植田委員

〈地域おこし協力隊〉奥村委員、佐藤委員、飯森委員

2. 次第

1) 開 会

2) あいさつ

3) 前回会議録の確認

4) ワークショップ

（1）目指すべき姿（目標）の共有

（2）目標実現に向けた具体的な取組の
発案・検討

（3）リレー発表

5) その他

6) 閉 会



3. 会議概要

1) あいさつ（佐藤副参事）

本日は夜の開催ということで、お疲れのところかと思うがよろしくお願ひしたい。

前回、「日本一のりんごの町」がどういったものか、飯綱町の強みと弱みについて意見をいただき、1回目、2回目で議論が尽くせたかというところ、まだまだ言い足りないところもあると思うが、いろいろな意見はいただけたかと思う。

本日は2つの意味で大事な会になる。一つは、これから「日本一のりんごの町」を目指すにあたり目指すべき姿を共有して、取組の大きな方向性を考えていくかたちになる。2点目は、役場の方で来年度の予算検討がこれから本格化していくなかで、その中身を考えていくとても大事な時期になる。そうしたなかで、これだけは言っておきたい、ねじ込んでいきたいということをご発言やご意見としてグループのなかでいただければと思う。

2) 前回会議録の確認とワークショップ

（1）目指すべき姿（目標）の共有

「日本一のりんごの町」の具体化と実現に向けて、前回会議で出された意見をふまえ事務局から提示したキャッチフレーズの案（ま〜るいりんごで尖がろう！）と3つの目標案（①：多品種で高品質なりんごをつくる町、②：多彩なりんご体験ができる町、③：町民みんながりんごを愛する町）を全体で共有した。

（2）目標実現に向けた具体的な取組の発案・検討

「3つの目標実現に向けて尖がる取組をみんなで考えよう！」をテーマに、まず前回の会議録を各位で読み直し、「生産・就農」、「加工・販売（購入）」、「観光・暮らし」の3つの観点から出し合った意見を再確認した後、目標実現に向けて尖がれそうな取組を「発案シート」（次ページ：A4判）に記入した。

次に各位が記入した発案シートの内容を検討の切り口にして、グループごとに1つの取組を考え、プロジェクト名、実現したい目標、目的（ねらい）、具体的な取組内容、取組主体や体制その他を所定のワークシート（A0判）にまとめるワークを行った。ワークに先立ち、各班委員のなかから進行役、記録係、発表者を決めて、委員主体で検討を進めた。

各位に記入いただいた発案シートの概要（プロジェクト名と目的など）を次ページの表に整理するとともに、各班でまとめたワークシートとワーク後のリレー発表の内容を、班ごとA班から順に6〜11ページにまとめた。

各位に記入いただいた発案シートの概要

(敬称略)

目標	班	氏名	プロジェクト名	目的
目標①	A		買う側から見えやすく	・各農家の品種と生産量を収入に繋げる ・小規模での生計を立てやすくする ・新規就農者の増加・定着率の上昇
目標①	B		健康においしさ+(プラス)あっぷる	農業を極力使わない等、健康を考えていく →高品質なりんご→高値で売る→ブランド化
目標①・②	C		ま〜るいりんごで尖ろう！	りんごをきっかけに作物生産の最先端技術が開発される・生きている町として広く知られる様になり、町の活性化につながる。
目標①・②・③	B		りんごの木の下でお花見・ピクニック	桜の花見のようにりんごの花も色んな色や大きさにキレイなことを知ってもらい、この花からどのようにりんごになるのか興味を持ってもらう。→収穫期に買いに来てもらう。援農に来てもらう。新規就農などに繋げる。
目標②	B		Apple job's「働くを通じて革命を」	・関係人口を増やす ・尖った取組で注目を集める ・人手の確保・長期滞在により移住体験
目標②	B		りんごで若返りプロジェクト	りんごのある農家の暮らしを多くの人に体験してもらい、心も体も元気になり、幸せを実感してもらう。
目標②	B		りんご園を「学びの場」に	企業研修や教育旅行に活用する(農作業体験、青空会議、ストレス軽減等)交流、関係人口の創出になり、滞在や宿泊により経済効果が生まれる。同時に人手不足の軽作業の使い手とする。
目標②	B		一年中りんごで楽しめるまちいづな	・飯綱にあふれるりんご畑のロケーションを日本のりんご、田舎、多品種で差別化し、体験プログラムとして外国人観光客にPR
目標②	B		リンゴジュースで感動体験	多品種を栽培している強みを生かし、他ではあまり見られない体験ができることをアピールすることで、飯綱町の知名度を上げる
目標②	C		りんごスポットフォトラリー/飯綱町のりんごを広めてください！フォトスポットラリー	・町のPR(全国的な知名度が低い) ・町施設等の回遊 ・観光体験の充実
目標②	C		りんごスポットラリー回遊PR「いいづなりんごの楽しみ方のご提案」	新しい体験メニューをつくるのではなく、今あるたくさんの体験メニューをいかにみんなに知ってもらうかを重視。そのなかで充実が足りなければ制度、仕組みを見直す。
目標②	A		いいづなりんごセンター(仮)設立プロジェクト	いいづなりんごで効率よく、サービス提供者も消費者もストレスなく、稼ぐ!!!!!!
目標③	A		いいづな聖地巡礼化プロジェクト	飯綱町の知名度をアップさせ、人を呼び込む
目標③	C		いいづな町は何でもりんごプロジェクト	・内外にりんご愛を知らしめる ふつうじゃないよ飯綱町！
目標③	C		飯綱町りんご産業クラスター構築プロジェクト	・「りんご」を基盤産業として豊かになって納税も可能となるように関連産業を戦略的に育成する。(生産自体にも寄与できるように) ・その事により、飯綱町で豊かに安心して自分らしい仕事や生活を送ることで、自然や人とのつながりのなかで人間らしい幸福な生活を送れるようにする。
目標③	C		-	農業は自然の一部です。町で循環を考えたりんごの町にしてい く事とその活動を支援してくれるファンとのお金を循環もしてい く活動。特別栽培やエコファーマー
目標③	A		いいづなりんご博士育成講座	Well-being 学びの場の提供
目標③	A		子どもから大人まで 楽しく りんご愛を育むプロジェクト	-
目標③	A		いいづなりんご366	町民のりんご愛が全国に認知してもらう

A 班のワークシートと発表内容

A 班のワークシートの記入内容

プロジェクト名	いいづな推しりんごプロジェクト
実現したい目標	目標① 多品種で高品質なりんごをつくるまち 目標③ 町民みんながりんごを愛するまち
目的（ねらい）	・飯綱の知名度をアップさせ、人を呼び込む ・マツコの知らない世界へりんご博士を送り込む ・りんごカードを普及させる（流行らせる）
具体的な取組	いいづなりんごカードをつくる（品種別） レアカードとして、Mrs.Green Apple カードをつくる。 →ゲーム性をもたせる。（コレクションしたくなる要素） カードを使用して、知識を高める。→りんご博士育成講座を開催する 町民一人一人が推しりんごを言える。 役場・町内事業者の名刺に推しりんごを入れる、推しりんごカードを携帯。
取組主体や体制その他	プロジェクトチームをつくる。

進行役：山城 竜星、記録係：山下 絵里、発表者：三原 彩音

<プロジェクト名> ※キャッチコピーなどでも可
いいづな 推しりんご プロジェクト

<実現したい目標>
※以下3つの目標のうち、いずれか1つは選択してください。複数の目標実現につながる取組であれば複数選択も可

☒ 目標① 多品種で高品質なりんごをつくる町（品種・品質日本一）
☐ 目標② 多彩なりんご体験ができる町（体験メニュー日本一）
☒ 目標③ 町民みんながりんごを愛する町（りんご愛日本一）

<目的（ねらい）>
・飯綱の知名度をアップさせ、人を呼び込む
・マツコの知らない世界へりんご博士を送り込む
・りんごカードを普及させる（流行らせる）

<具体的な取組内容>
いいづなりんごカードを作る（品種別） レアカードとして、Mrs.Green Apple カードを作る。
→ゲーム性をもたせる
（コレクションしたくなる要素）

カードを使用して、知識を高める。→りんご博士養成講座を開催する

町民一人一人が推しりんごを言える。
役場・町内事業者の名刺に推しりんごを入れる。
推しりんごのカードを携帯。

<取組主体や体制その他>
プロジェクトチームを作る

A 班

進行役：山城 竜星
記録係：山下 絵里
発表者：三原 彩音

A 班のワークシートのまとめ

プロジェクト名は、「いいづな推しりんごプロジェクト」。実現したい目標は、目標①多品種で高品質なりんごをつくるまち、目標③の町民みんながりんごを愛するまちで、どちらかというとりんご愛に重点を置いた。

目的は、とにかく飯綱の知名度をアップさせて人を呼び込むこと。最終的なゴールは、マツコの知らない世界にりんご博士を飯綱から送り込むことが最終ゴール。

具体的な取組内容は、まず多品種が飯綱のりんごの特徴なので、それを活かした飯綱のりんごカードというものを品種別でつくる。そのカードはポケモンカードなどのようにゲーム性を持たせつつ、りんごの品種に関する知識もしっかりと盛り込み、最終的にコレクションしたくなるようなものにする。ここにレアカードとして、Mrs.Green Apple カードを盛り込む。カードを集めてもらいカードを使用して知識を得てもらう。その知識をりんご博士養成講座に繋げて、知識を得たところで町民全員が1人1人、推しりんごを言えるようにする。

盛り上がった話では、役場や町内事業者の皆さんは必ず名刺を持っていると思うが、名刺の項目に名前と連絡先と推しりんごを必ず入れていただく。名刺交換をした相手に「さて、ここで問題です。」と自分の推しりんごのクイズを出して、答えられた方にもう片方のポケットから推しりんごカードを出し、「推しりんごはこれです。」と紹介する。町民の皆さんにやっていただくというようなことも話で上がっていた。

実施主体は、プロジェクトチームをつくっていろいろな方に町全体でやっていくのがよいのではないかという話だった。また、相澤農園さんのりんごカードが参考である。写真が大きめでシナノスイートの特徴が入っているという感じでこんなイメージである。



A 班の発表の様子

B 班のワークシートと発表内容

B 班のワークシートの記入内容

プロジェクト名	ピクニックりんご園
実現したい目標	目標② 多彩なりんご体験ができるまち
目的（ねらい）	四季折々のりんご園を体験できる
具体的な取組	・冬 スノーシューを履いて園に入る ・インバウンドの活用 ・記念日などのサプライズ演出プロポーズなども ・りんご園でパーティープラン←企業研修 ・春、花見、みつどん or 50 種類のりんごレジャーシート
取組主体や体制その他	・農家との連携、場所の提供のみ ・飲食店で花見弁当パック的なものの販売

進行役：廣田 裕二、記録係：鍋木 雅、発表者：中村 淳子

<プロジェクト名> ※キャッチコピーなどでも可
ピクニック りんご園

<実現したい目標>
※以下 3 つの目標のうち、いずれか 1 つは選択してください。複数の目標実現につながる取組であれば複数選択も可

☐ 目標① 多品種で高品質なりんごをつくる町（品種・品質日本一）
☒ 目標② 多彩なりんご体験ができる町（体験メニュー日本一）
☐ 目標③ 町民みんながりんごを愛する町（りんご愛日本一）

<目的（ねらい）>
四季折々のりんご園を体験できる

<具体的な取組内容>

- ・冬、スノーシューを履いて園に入る
- ・インバウンドの活用
- ・記念日などのサプライズ演出、プロポーズなども
- ・りんご園でパーティープラン ← 企業研修
- ・春、花見、みつどん or 50 種類のりんごレジャーシート

} → 具体的な収益化へ

<取組主体や体制その他>

- ・農家との連携、場所の提供のみ
- ・飲食店で花見弁当パック的なものの販売

B 班

進行役： 広田

記録係： 鍋木

発表者： 中村

B 班のワークシートのまとめ

プロジェクト名は、「ピクニックりんご園」。実現したい目標は、主に目標②の多彩なりんご体験ができるまちで、目的は、四季折々のりんご農園を体験できること。具体的な取組内容は、冬にスノーシューを履いて農園に入ったりインバウンドの活用で、実際にインバウンドの方がりんご園でプロポーズをされたそうで、記念日などサプライズ演出などもやってみたらどうかという案が出た。少し前に町でもあったように、企業の方でりんごの作業していただき、ストレス値を測る事業もあったが、りんご園でパーティープランというのもよいかということと、企業研修でここを具体的な収益にできたらよいのではないかという案が出た。

最初に出たのが春でお花見。サクラだけではなく、りんごも花が咲くし種類によっては花びらの

色も違うので、お花見のような感覚でやってみてはどうかというところから話が広がった。みつどもや 40 品種のデザインで、T シャツではなくレジャーシートをつくって、それを敷いてもらうのはどうか。

取組主体とその体制として、受け入れるのは農家さんのりんご園だが、このような体験は農家のだけでやるとなるととても大変なので、農家は畑だけ、場所を提供ということが一番よい。チームまではいっていないが町を主体として、飲食店で花見のお弁当パックス的なものやりんごに関係するスイーツなどを販売していただき、農家さんにはジュースを提供していただくなど、四季いつ来てもいろいろな体験ができるというところがよいところである。お花の時期だけだったらよいという農家さんや、摘果の作業も含めてこの時期はよいなど、冬の時期だったら、畑を歩いてもよいとか、農家が協力できて選べるような体制にしたい。

一番は花を見てこんなきれいな花からどんなりんごになるんだろうと、りんごの時期にまた来ていただいて買っていただくとか、援農体験をしていただき、興味をもってもらい、新規就業に繋がるように来て、体験していただくことで何かその後に繋がっていければよいということで、この案が出た。



B 班の発表の様子

C 班のワークシートと発表内容

B 班のワークシートの記入内容

プロジェクト名	なんでもりんごプロジェクト
実現したい目標	目標② 多彩なりんご体験ができるまち 目標③ 町民みんながりんごを愛するまち
目的（ねらい）	・町民（みんな）が楽しめる、関われる ・町外に町のりんご愛を示す ・町にいろいろな人に来てもらう
具体的な取組	・アップルハロウィーン ・アップルポスト ・田んぼでりんごアート ・りんご年賀状 ・鏡餅→りんごを乗せる ・りんごのゴルフボール ・かかしがみつどん
取組主体や体制その他	有志で事務局

進行役：原口 光雄、記録係：木内 礼次郎、発表者：小野 司

<プロジェクト名> ※キャッチコピーなどでも可 なんでもりんご プロジェクト

<実現したい目標>

※以下3つの目標のうち、いずれか1つは選択してください。複数の目標実現につながる取組であれば複数選択も可

☐ 目標① 多品種で高品質なりんごをつくる町（品種・品質日本一）

☒ 目標② 多彩なりんご体験ができる町（体験メニュー日本一）

☒ 目標③ 町民みんながりんごを愛する町（りんご愛日本一）

<目的（ねらい）>

・町民（みんな）が楽しめる、関われる。

・町外に町のりんご愛を示す。

・町にいろいろな人に来てもらう。

<具体的な取組内容>

・アップルハロウィーン

・アップルポスト（テ）

・田んぼでりんごアート

・りんご年賀状

・鏡もちをりんごに乗せる。

・りんごのゴルフボール

・かかしがみつどん

<取組主体や体制その他>

・有志で事務局

C 班

進行役：原口

記録係：木内

発表者：小野

ワークシート

C 班のワークシートのまとめ

C 班は、いろいろな意見が出て、メンバーそれぞれで考えているということや課題意識がわかったが、最終的に私のアイデアを採用していただいた。

プロジェクト名は、「なんでもりんごプロジェクト」というタイトルにした。実現したい目標は、1つは目標②の体験メニュー日本一、もう1つが目標③のりんご愛日本一で、私が考えたときは、1番目にりんご愛があり、そのりんご愛を感じられることが飯綱町にくとできるということで、この2つを選んだ。

目的は、まずこの企画に関わらせていただいたときに感じているのは、ここには代表の方が皆さんいらっしゃるが、ここに来ていない町民の方が大多数なので、そういった方に一部の人が何かやっているよというふうに思われたいようにするために、やはり皆さんに関わっていただきやすいプロジェクトを1つは用意していかななくてはならないということで、町民みんなが楽しめて関わること、関心を持ってもらうということが1つの目的。2つ目は、日本一ということを示していくために、町外の人に飯綱町の人がりんご愛をこんなに持っているということを示していくものであること。3つ目が、結果的にそれを見て飯綱町を知ってもらい、また来てもらうというところを目的にした。

具体的な取組は、シンプルに考える。昨日はハロウィーンだったが、ハロウィーンは一般的にはカボチャでも飯綱町に来るとりんごがお化けになっているというアップルハロウィーンなどなんでもよい。ポストは赤いが、飯綱町は四角じゃなくて丸いりんごのポストだったり、田んぼアートが一時期流行ったが、これもりんごが描いてあったり、年賀状も日の出がりんごなどりんごの絵が入っていたり、お正月の鏡餅のみかんがりんご、ゴルフ場に行けば、ゴルフボールがみんなりんご、かかしがみつどんなど、なるべく簡単に皆さんができるものを用意した方がよいのではないかと思った。

取組主体は、事務局が考えたことをやるというよりも、コンセプトを伝えて皆さんにおもしろいこと考えたぞと出してもらおう。そうなった際に、有志で事務局と書いたが、例えばそういうおもしろいものを発信したいなというインスタグラマーなど、SNSを積極的にやっている方やりんご愛がすごい方に参加してもらい、主導していただくと進めやすいと考えた。



C班の発表の様子

3) その他

次回推進会議は年内に開催予定。